



いのちとくらしをまもる
防災減災

令和8年10月13日
国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所
本巢市

「災害対応能力を連携で高める！」
市町・県・国が連携し合同防災訓練を実施します
～令和8年度 越美山系大規模土砂災害合同防災訓練～

この合同防災訓練は、越美山系砂防事務所管内の関係機関が連携し、大規模土砂災害発生時における防災担当者の災害対応能力の向上と関係機関相互の更なる連携強化に資することを目的として、平成23年度から毎年実施しています。

令和8年度は、降雨に起因した大規模土砂災害（河道閉塞）の発生を想定し、土砂災害防止法に基づく緊急調査等の実施段階における関係機関間の情報共有をテーマとして訓練を実施します。訓練形式は、本巢市、揖斐川町、岐阜県及び国土交通省等の防災担当者が、災害時に迅速かつ的確な対応を行うための連携体制の強化を図ることを目的として、参加者が主体的に意見交換を行うワークショップ形式の訓練とします。

1. 開催日等

- 日時 令和8年10月19日（月） 13:30～16:30（予定）
- 場所 本巢市役所本庁舎 3階大会議室（〒501-0491 岐阜県本巢市早野 255 番地）
- 参加者 本巢市、揖斐川町、岐阜県
国土交通省中部地方整備局 河川部、関係事務所 等 約60人

2. 取材事前登録のお願い

来場人数を事前に把握するため、取材をご希望される方は事前登録をお願いしております。別紙の取材登録書に必要事項をご記入の上、10月16日（金）16時までに提出をお願いします。

3. 中止の判断

災害体制等により訓練を中止する場合は、当日午前9時に判断し、越美山系砂防事務所のホームページに掲載します。

4. 配布先

岐阜県政記者クラブ
越美山系砂防事務所管内（本巢市・揖斐郡揖斐川町）支局等

5. その他

大規模土砂災害発生時の緊急調査等のイメージとして、別紙-参考資料をご覧ください。

【問合せ先】

（実施内容について） 国土交通省中部地方整備局

越美山系砂防事務所

副所長（技術） 土屋 郁夫

調査課長 松原 和哉

TEL 0585-22-2161

（会場について）

本巢市役所 総務部総務課

防災安全係長 鬼頭 一兵

主査 山田 周平

TEL 058-323-5191

(案)

令和 8 年度 越美山系大規模土砂災害合同防災訓練

場所：本巢市役所本庁舎 3階大会議室

次第

1. 開会

開會挨撈

- ・本 巢 市 長 藤原 勉
- ・中部地方整備局 越美山系砂防事務所長 樫野 誠

2. 訓練

- (1) 概要説明
- (2) 訓練実施（意見交換、発表、まとめ）
- ・ステージ1：情報収集・初動体制の確立
 - ・ステージ2：土砂災害発生箇所・被害状況の把握、警戒避難の実施
 - ・ステージ3：緊急調査・応急対策の実施、住民への情報提供

3. 講評

- ・本 巢 市 長 藤原 勉
- ・中部地方整備局 総合土砂管理官 中島 康支

4. 閉会

■参考：土砂災害防止法に基づく緊急調査（河道閉塞）の概要

令和6年3月 越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会

＜目的＞

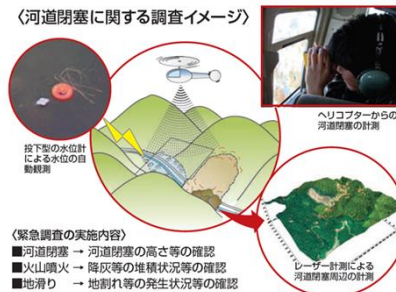
大規模な土砂災害が急迫している状況において、市町村が適切に住民の避難指示の判断等を行えるよう特に高度な技術を要する土砂災害については国土交通省が、その他の土砂災害については都道府県が、被害の想定される区域・時期の情報を提供することとします。

＜背景＞

- ①新潟県中越地震（平成16年）、岩手・宮城内陸地震（平成20年）の際、多数の河道閉塞（いわゆる天然ダム）が形成され、県など地元自治体からの要請を受け、緊急対策を国土交通省が支援しました。
- ②河道閉塞・火山噴火に起因する土石流および地滑り等による大規模な土砂災害が急迫している場合、
 - ・ひとたび発生すると広範囲に多大な被害が及ぶとともに時々刻々と変化するリスクの把握が必要。
 - ・住民に避難指示をする権限は市町村にあり、大規模な土砂災害の経験が少なく、避難指示の判断等の根拠となる情報を自ら入手することが困難なため、国土交通省又は都道府県による技術的支援が必要。

＜緊急調査に係る主な流れ＞

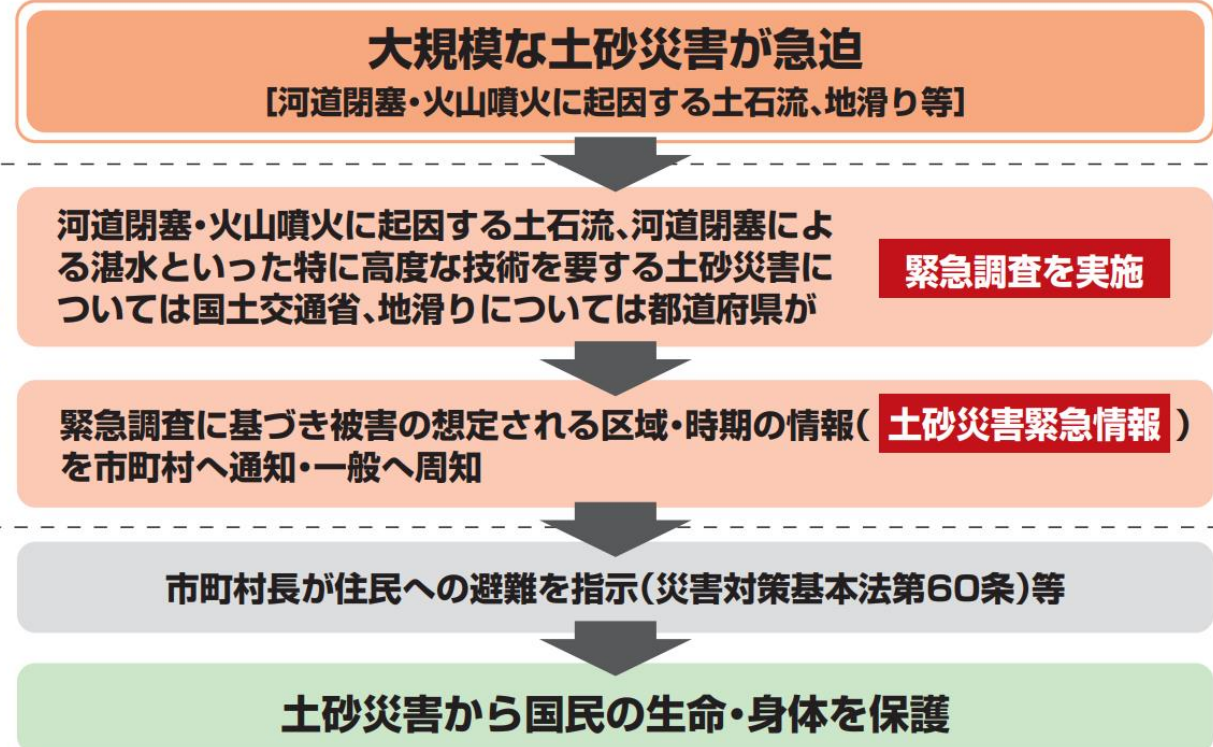
緊急調査の概要



緊急調査対象の要件



法改正による
制定事項



■参考：大規模土砂災害発生時の緊急調査等の実施イメージ

令和6年3月 越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会

①第一報（発災情報）



河道閉塞(天然ダム)の発生

②着手の判断、 緊急調査の実施

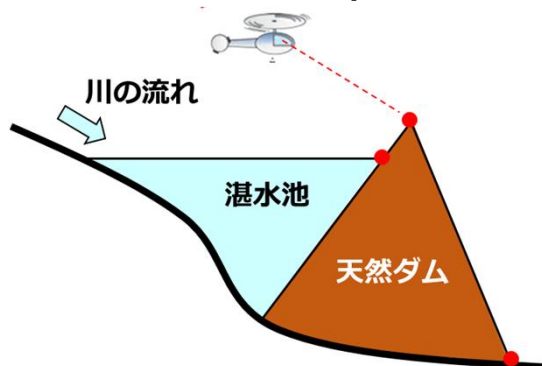


③緊急調査の実施（湛水状況の監視）



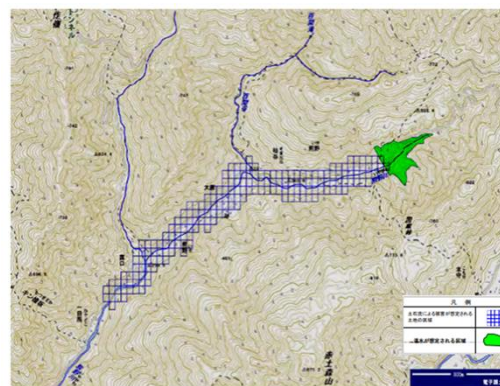
水位計の設置（投下型水位観測ブイ）

④緊急調査の実施 （各種計測）



ヘリ調査のイメージ
（天然ダムの高さ、
座標等を計測）

⑤緊急情報の提供 （シミュレーションの実施）



氾濫解析の例

⑥随時情報の提供、警戒避難支援、 二次災害防止対策の実施



近畿地方整備局Web「2011年紀伊半島大水害」

<https://www.kkr.mlit.go.jp/bousai/kiroku/qgl8vl0000008lkt-att/kiihantou-kirokushi.pdf>より抜粋

降雨を起因とした大規模土砂災害(河道閉塞)に対し、岐阜県、揖斐川町、本巣市及び国土交通省等の各防災担当者の災害対応能力を向上及び各関係機関の連携強化をするため、合同防災訓練を実施しました。

今年度は、昭和40年9月の奥越豪雨による徳山白谷と根尾白谷の大崩壊発生から60年の節目の年であることから、降雨を起因とした大規模土砂災害による、揖斐川の河道閉塞を想定した災害対応に関して、ワークショップ形式による、各防災担当者の意見交換を実施しました。

◎訓練の様子



ワークショップ形式によるグループ意見交換



【開会挨拶・講評】揖斐川町 岡部町長



【講評】岩田総合土砂管理官

◆実施日時：令和7年10月27日(月)13:30～16:30

◆訓練方式：ワークショップ形式

◆参加機関・参加者数：合計14機関 参加者 約60名

国土交通省 中部地方整備局河川部、越美山系砂防事務所、木曽川上流河川事務所、
木曽川水系ダム統合管理事務所

岐阜県 県土整備部、揖斐土木事務所、揖斐県事務所、岐阜土木事務所

揖斐川町、本巣市

(聴講)岐阜県危機管理部、大垣市、山県市、養老町

◎各機関からの主な意見

- ・警報発令後に避難所開設の準備等しながら、災害箇所をいつ、だれが、どの段階で発見するか、実際は難しいのではないかという話の中で、国の方からヘリやドローンによる調査が可能という話があり、有意義な訓練であったと感じた。【町】
- ・緊急調査結果によっては上流下流含めた避難計画の見直しを検討する必要がある、またそういった情報をいかに住民の方に速く正確に適用していくかが重要だと感じた。【町】
- ・リエゾンやTEC-FORCEというものが本当に今近くにいる国の機関の方が直接来ていただけるということがよく分かった。【県】
- ・今回の訓練では、緊急調査等は国が主体であったが、県として必要な調整等、こちらでできることも考えていきたい。【県】
- ・地域住民の避難時の判断材料に緊急調査の結果も入っているということを知ったので、早期に結果を提供できるようにしたいと思った。【国】
- ・大規模な災害であるため、国が主体となって調査を実施することになるかと思いますが、その際には本局やほかの砂防事務所も連携し、分散して対応し、対策を立てていく必要があると感じた。【国】

◎講評 揖斐川町長

平成18年の東横山の地すべりに対応した経験から、こういった大規模な災害対応の難しさを実感しているので、こうして市町、県、国の皆様一堂に会して情報交換や訓練をしたことを心強く思っており、今後も三者が連携しながら災害対応に備えていければと思います。

◎講評 岩田総合土砂管理官

皆さんが発言しようと常に積極的に考えており、非常に有意義な訓練であったと思いました。今後もワークショップ形式の訓練を定期的に繰り返し重ねて改善し、有事の際に備えていただければと思います。

令和8年度 越美山系大規模土砂災害合同防災訓練 取材登録書

当訓練の取材をご希望される機関におかれましては、事前登録のためこちらの取材登録書を期限までにメールまたはFAXにて提出をお願いいたします。

送信期限 令和8年10月16日(金) 16:00まで

1. 機関名 _____
2. 取材記者
 - i) お名前 (代表者) _____
 - ii) ご連絡先 (電話) _____
 - iii) 取材人数 (全体) _____人

3. 取材登録書送信先

国土交通省中部地方整備局 越美山系砂防事務所 総務課

メールアドレス cbr-etsumikouhou@mlit.go.jp

FAX 0585-22-2174